

## 2-1-2 人口

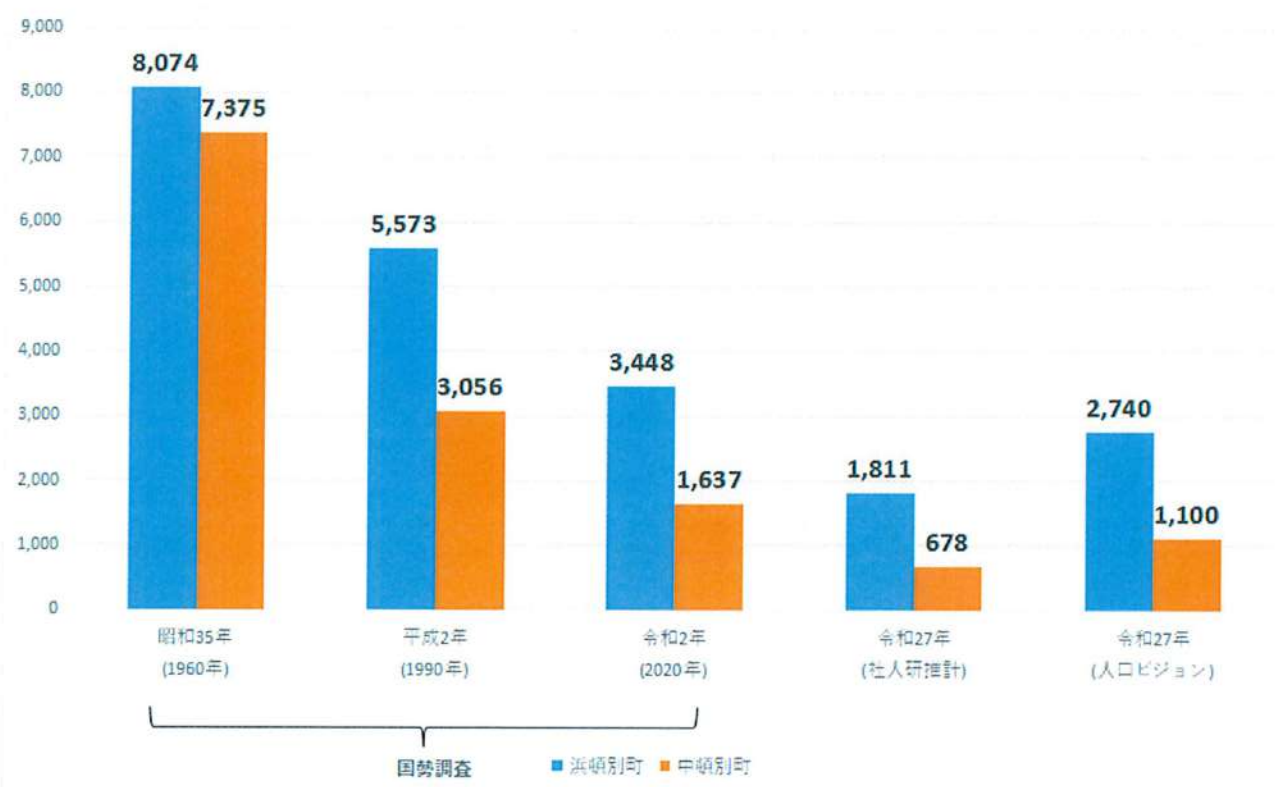
国勢調査によると、中頓別町の人口は、昭和35年（1960年）では7,375人、平成2年（1990年）では3,056人、令和2年（2020年）では1,637人となっています。

浜頓別町の人口は、昭和35年（1960年）では8,074人、平成2年（1990年）では5,573人、令和2年（2020年）では3,448人となっています。

国立社会保障・人口問題研究所の推計によれば、令和27年（2045年）には中頓別町の人口は678人、浜頓別町の人口は1,811人となる見込みです。

一方、人口の現状と将来推計を分析し、人口問題に関する基本認識の共有を図り、目指すべき将来の方向を示す「人口ビジョン」では、中頓別町の令和27年の人口は1,100人、浜頓別町の令和27年の人口は2,740人として目標設定されています。

表1 人口の推移



## 2-2 公共交通の概要

### 2-2-1 区域内を運行する公共交通

中頓別町内及び浜頓別町内を運行する公共交通は宗谷バス株式会社による路線バス及び都市間バス、中頓別ハイヤーと雄飛ハイヤーによるタクシーが運行されています。

### 2-2-2 鉄道

平成元年に町内を運行する鉄道が廃線となり、中頓別町から約38kmの距離がある音威子府村にJR北海道・宗谷本線が乗り入れています。音威子府村-旭川市間を繋ぐ特急サロベツが1日2便の往復、音威子府村-札幌市間を繋ぐ特急宗谷が1日1便の往復、音威子府村-名寄市間を繋ぐ普通列車が1日上り5便、下り4便となっています。

表2 JRの運行状況

運行主体	路線名	区間	運行便数(便/日)
JR北海道	宗谷本線・特急サロベツ	音威子府駅-旭川駅	上：2便
			下：2便
	宗谷本線・特急宗谷	音威子府駅-札幌駅	上：1便
			下：1便
	普通列車	音威子府駅-名寄駅	上：5便
			下：4便

2-2-3 路線バス

(1) 路線バスの概要

宗谷バス株式会社による路線バス「天北宗谷岬線」と「浜頓別線」が運行されています。

「天北宗谷岬線」は、中頓別町-音威子府村間を1日2便の往復、猿払村-浜頓別町-中頓別町間を1日上り4便、下り3便運行しています。

「浜頓別線」は、浜頓別町-枝幸町間を1日上り5便、下り4便運行しています。

表3 路線バスの運行状況

運行主体	路線名	区間	運行便数(便/日)
宗谷バス株式会社	天北宗谷岬線	中頓別町-音威子府村	上：2便
			下：2便
		猿払村-浜頓別町-中頓別町	上：4便
			下：3便
	浜頓別線	浜頓別町-枝幸町	上：5便
			下：4便

※天北宗谷岬線は稚内市-猿払村間の区間も運行しています。

(2) 路線バス(天北宗谷岬線)の利用状況

宗谷バス株式会社による路線バス「天北宗谷岬線」の乗車人員は平成6年には351千人でしたが、令和3年には76千人となっており、78.3%減少しています。

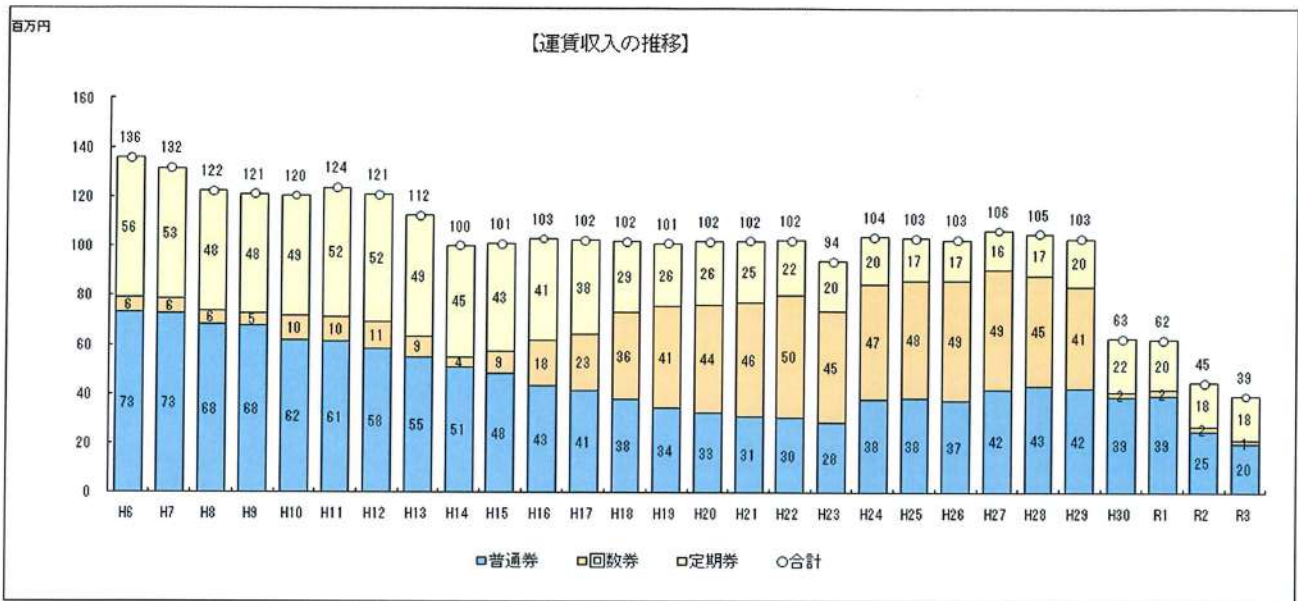
また、乗車人員の減少に伴い、運賃収入についても大幅に減少しており、平成6年には136百万円でしたが、令和3年には39百万円となっています。

なお、「天北宗谷岬線」には稚内市-猿払村間も含まれているため、乗車人員及び運賃収入は当該区間に係る分も含めた数値となっています。

表4-1 乗車人員の推移



表 4-2 運賃収入の推移

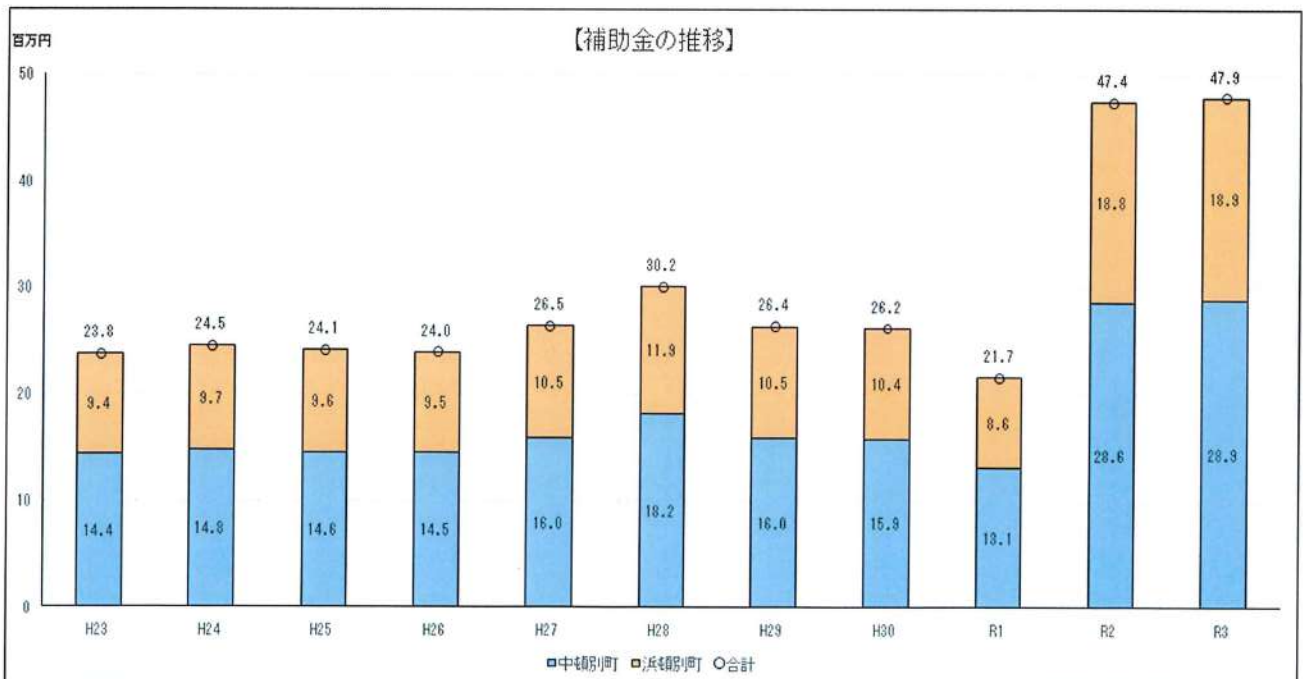


(3) 路線バスの課題

中頓別町及び浜頓別町から宗谷バス株式会社への補助金額は、2町あわせて平成23年は23.8百万円でしたが、令和元年10月から国庫補助対象外路線となったことも影響し、令和3年には47.9百万円となっています。なお、当該補助金額には、買い支えに係る金額は含まれていません。

また、都市部との広域交通を担う鉄道や都市間バスとの接続について、現状では乗り継ぎができない便や待ち時間が長い便があることから増便やダイヤの変更を望む声があるものの、経費の増が課題となっている中で、対応することは難しくなっています。

表 5 補助金の推移



#### 2-2-4 都市間バス

宗谷バス株式会社による都市間バス「天北号」及び「えさし号」が区域内を運行しています。

「天北号」は、浜頓別町及び中頓別町を経由し猿払村-旭川市間を1日1便往復しています。

「えさし号」は、中頓別町の小頓別地区を経由し枝幸町-旭川市間を1日2便の往復、枝幸町-札幌市間を1日1便往復しています。

なお、「天北号」及び「えさし号」は相互に乗り換え可能です。

表6 都市間バスの運行状況

運行主体	路線名	区間	運行便数(便/日)
宗谷バス 株式会社	天北号	猿払村-旭川市	上:1便
			下:1便
	えさし号	枝幸町-旭川市	上:2便
			下:2便
		枝幸町-札幌市	上:1便
			下:1便

#### 2-2-5 スクールバス

中頓別町では、小学生及び中学生の通学用に町から細谷建設株式会社に委託しスクールバスを運行しており、町立認定こども園の通園用に町から個人に委託し通園バスを運行しています。

浜頓別町では、小学生、中学生及び高校生の通学用に町がスクールバスを運行しており、一般混乗が可能となっています。

#### 2-2-6 タクシー

中頓別町では、主に町内を運行区域として、中頓別ハイヤーが営業日及び営業時間の制限なく運行しています。

浜頓別町では、主に町内を運行区域として、雄飛ハイヤーが月曜日から土曜日の8時から15時まで運行しています。

どちらも車両台数1台で運行しています。

#### 2-2-7 福祉有償運送

中頓別町では、主に町内を運行区域として、介護・福祉タクシーどんぐりが運行しています。

浜頓別町では、町から福祉会へ委託し、福祉有償運送を行っています。

#### 2-2-8 その他

中頓別町では、登録したボランティアドライバーが依頼に応じて自家用車で輸送を行う中頓別ライドシェアを行っています。

浜頓別町では、曜日により経路・ダイヤが決められたちょっと乗りバスを町が運行しており、対象者を限って利用することができる移送サービスの運行も町が行っています。

## 2-2-9 乗り継ぎ（接続）

### (1) 路線バス（天北宗谷岬線）-鉄道（JR 北海道・宗谷本線）

天北宗谷岬線の上り2便目が音威子府駅でJR 特急サロベツの上り2便目に接続しています。

天北宗谷岬線の下り2便目が音威子府駅でJR 特急宗谷の下り2便目に接続しており、天北宗谷岬線の下り3便目が音威子府駅でJR 特急サロベツの下り1便目及び普通列車の下り2便目に接続しています。

### (2) 路線バス（天北宗谷岬線）-都市間バス（えさし号）

天北宗谷岬線の下り3便目が音威子府駅及び小頓別駅でえさし号の下り2便目に接続しています。

### (3) 路線バス（天北宗谷岬線）-路線バス（浜頓別線）

浜頓別線の下り1便目及び3便目を除き浜頓別バスターミナルで天北宗谷岬線に接続しています。

### (4) 路線バス（浜頓別線）-都市間バス（えさし号）

えさし号の下り1便目が枝幸バスターミナルで浜頓別線の上り3便目と接続しており、えさし号の下り2便目が枝幸バスターミナルで浜頓別線の上り4便目と接続しています。

えさし号の上り2便目が枝幸バスターミナルで浜頓別線の下り1便目と接続しています。

### (5) 都市間バス（天北号）-都市間バス（えさし号）

えさし号の上り1便目及び下り3便目が音威子府駅で天北号と接続しています。なお、下り3便目は小頓別でも接続しています。

### (6) 都市間バス（天北号）-鉄道（JR 北海道・宗谷本線）

天北号の上り便が音威子府駅でJR 特急サロベツの上り1便目に接続しています。

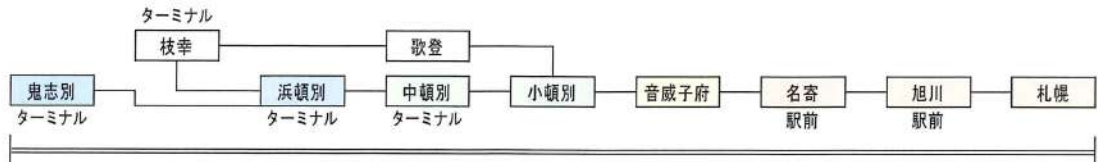
天北号の下り便が音威子府駅でJR 普通列車の下り3便目に接続しています。

### (7) 都市間バス（えさし号）-鉄道（JR 北海道・宗谷本線）

えさし号の上り1便目が音威子府駅でJR 特急サロベツの上り1便目に接続しており、えさし号の上り3便目が音威子府駅でJR 普通列車の上り4便目に接続しています。

えさし号の下り2便目が音威子府駅でJR 特急サロベツの下り1便目及びJR 普通列車の下り2便目に接続しており、えさし号の下り3便目が音威子府駅でJR 普通列車の下り3便目に接続しています。

図2 各ダイヤと接続便



路線バス

天北宗谷岬線 (上り)	7:15 11:45 15:04 17:49	→	8:14 12:54 16:13 18:58	→	8:41 13:30 16:38 19:24	→	9:16 14:04	→	9:37 14:25	→	グレー網掛け：接続 特急サロベツ(15:03)
天北宗谷岬線 (下り)	9:25 13:56 18:27	←	8:18 12:49 17:27	←	7:50 12:23 17:01	←	11:40 16:25	←	11:20 16:05	←	特急宗谷(10:41) 特急サロベツ(15:24)、普通列車、えさし号(16:05)
浜頓別線 (上り)	えさし号 (15:05) えさし号 (17:00)	→	7:30 9:55 16:10 18:10	→	8:15 10:40 16:55 18:55	→	天北宗谷岬線 (下り8:18) 天北宗谷岬線 (下り12:49、上り12:54) 天北宗谷岬線 (下り17:27) 天北宗谷岬線 (上り18:58)				
浜頓別線 (下り)	えさし号 (8:15)	←	7:55 9:15 12:50 18:13 20:00	←	7:10 8:30 12:05 17:28 19:15	←	天北宗谷岬線 (上り8:14、下り8:18) 天北宗谷岬線 (上り16:13、下り17:27) 天北宗谷岬線 (上り18:58)				

JR

特急 (上り)	天北号、えさし号 (8:05) 天北宗谷岬線 (14:25)	→	8:38 15:03 19:45	→	9:25 15:50 20:32	→	※1 10:30 17:00 21:30	→	11:55 18:25 22:57
特急 (下り)	天北宗谷岬線 (11:20) 天北宗谷岬線、えさし号 (16:05)	←	10:41 15:24 21:48	←	9:56 14:31 21:03	←	9:00 13:35 20:06	←	7:30 12:00 18:30
普通列車 (上り)	えさし号 (17:25)	→	6:39 7:45 13:12 17:54 20:50	→	7:45 8:46 14:17 19:00 21:49				
普通列車 (下り)	天北宗谷岬線、えさし号 (16:05) 天北号、えさし号 (18:40)	←	9:05 16:05 17:44 20:49	←	7:53 14:59 16:39 19:30				

※1 上り最後、下り最初のみ乗換なし

都市間バス

天北号(上り)	6:05	→	6:48	→	7:10	→	7:34	→	※2 ※3 8:05	→	9:05	→	11:10
えさし号 (上り)	浜頓別線 (7:55)	→	7:00 8:15 16:30	→	7:37 8:52 17:10	→	9:10 17:25	→	※4 10:15 18:20	→	11:50 20:05	→	12:25
えさし号 (下り)	浜頓別線 (16:10) 浜頓別線 (18:10)	←	15:05 17:00 19:35	←	14:26 16:21 18:56	←	14:10 16:05 18:40	←	※5 13:10 17:40	←	11:30 16:00	←	11:30
天北号(下り)	20:28着	←	19:47	←	19:25	←	18:56	←	18:40	←	17:30	←	15:30

※2 えさし号と天北号は相互に乗換可能 ※3 JR特急(8:38)に接続 ※4 JR普通列車(17:54)に接続 ※5 天北宗谷岬線(16:05)に接続

## 2-3 各種調査結果

### 2-3-1 天北地域生活交通ネットワーク維持計画策定調査業務（天北宗谷岬線）

平成26年度に行った当該事業において、8月17日から23日と9月7日から13日の2回にわたり、当該路線の全便の乗客を対象としたアンケート調査を実施しました。実施方法は聞き取りによるもので、回答総数は157となっています。

#### (1) 回答者属性

女性が6割以上、60代以上が5割以上を占めました。

浜頓別町及び中頓別町の居住者が多く、沿線外からの利用者も3割近くいました。

表7-1

性別	回答数	構成比
男性	60	38.2%
女性	97	61.8%
合計	157	100.0%

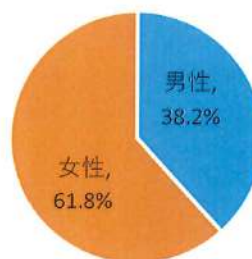


表7-2

年齢	回答数	構成比
10代	3	1.9%
20代	16	10.2%
30代	10	6.4%
40代	17	10.8%
50代	27	17.2%
60代以上	82	52.2%
無回答	2	1.3%
合計	157	100.0%

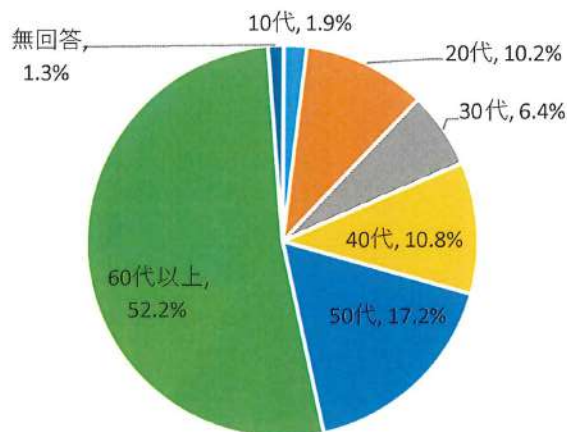
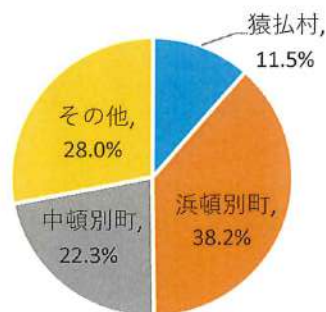


表7-3

居住地	回答数	構成比
猿払村	18	11.5%
浜頓別町	60	38.2%
中頓別町	35	22.3%
その他	44	28.0%
合計	157	100.0%



(2) 利用状況

利用目的は「通院・通所」が最も多く、上り便の利用者は半数以上が乗り継ぎをして都市部を最終目的地としてることが分かります。

上り便の乗り継ぎ手段としては、ほとんどがJRの利用となっています。

なお、当該事業期間は、名寄市までの実証運行を行っていたため上り便利用者の降車場所のうち、3割ほどが名寄市でしたが、現在は名寄市までの運行は行っていません。

表7-4

乗車方向	回答数	構成比
上り	56	35.7%
下り	101	64.3%
合計	157	100.0%

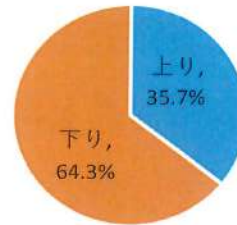


表7-5

利用目的	回答数	構成比
買い物	4	2.5%
仕事	26	16.6%
通院・通所	57	36.3%
旅行・行楽	19	12.1%
帰郷・離郷	32	20.4%
その他	19	12.1%
合計	157	100.0%

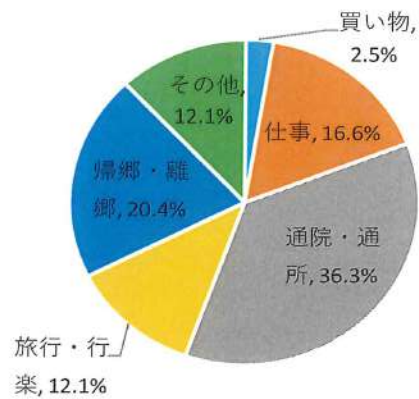


表7-6

下り便利用者降車場所	回答数	構成比
猿払村	16	15.8%
浜頓別町	52	51.5%
中頓別町	33	32.7%
合計	101	100.0%

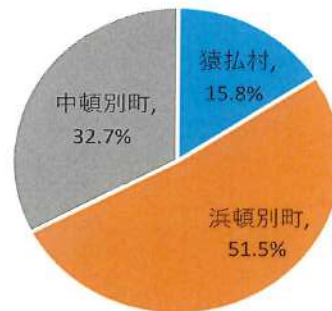


表7-7

上り便利用者降車場所	回答数	構成比
浜頓別町	4	7.1%
中頓別町	5	8.9%
音威子府村	30	53.6%
名寄市	17	30.4%
合計	56	100.0%

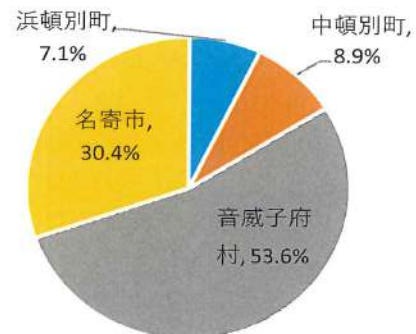




表7-8

上り便利利用者 最終目的地	回答数	構成比
札幌市	14	25.0%
旭川市	6	10.7%
名寄市	13	23.2%
浜頓別町	3	5.4%
中頓別町	4	7.1%
他 道内	5	8.9%
道外	5	8.9%
不明	6	10.7%
合計	56	100.0%

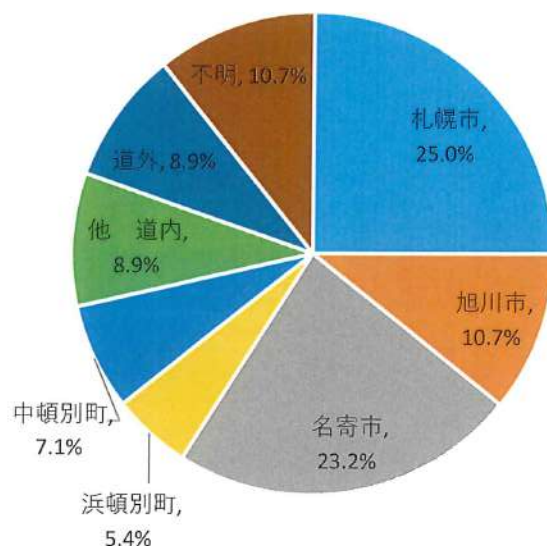


表7-9

上り便降車後 の乗り継ぎ	回答数	構成比
有り	32	57.1%
無し	24	42.9%
合計	56	100.0%

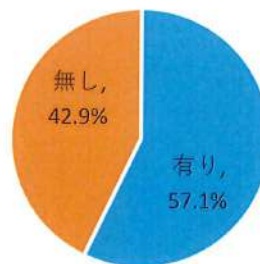


表7-10

乗り継ぎ手段	回答数	構成比
JR	30	93.8%
バス	2	6.3%
合計	32	100.0%

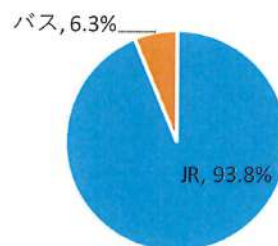
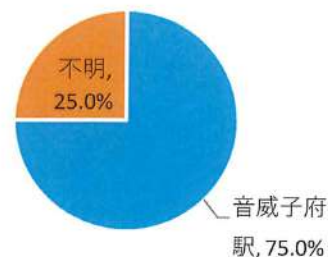


表7-11

乗り継ぎ場所	回答数	構成比
音威子府駅	24	75.0%
不明	8	25.0%
合計	32	100.0%



### (3) 意見・要望

JRとの接続について、「待ち時間が長い」といった意見や「接続に係る待ち時間を短くしてほしい」といった要望がありました。

また、「乗り継ぎが良ければバス移動を選択することが多い」という声も寄せられました。

2-3-2 天北地域生活交通ネットワーク維持計画策定調査業務（天北号）

平成 26 年度に行った当該事業において、8 月及び 9 月の 28 日間で、当該都市間バスの乗客を対象としてアンケート調査を実施しました。各ターミナルにおける乗車券購入時にアンケート票を配布後、職員が回収する方法により実施し、回答総数は 141 となっています。

(1) 回答者属性

女性が 7 割以上、60 代以上が 6 割を占めました。

浜頓別町の居住者が多く、次いで中頓別町、猿払村、その他（沿線外）の順となっています。

表8-1

性別	回答数	構成比
男性	39	27.7%
女性	102	72.3%
合計	141	100.0%

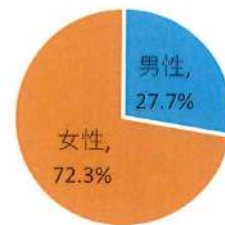


表8-2

年齢	回答数	構成比
10代	5	3.5%
20代	7	5.0%
30代	5	3.5%
40代	16	11.3%
50代	23	16.3%
60代以上	85	60.3%
合計	141	100.0%

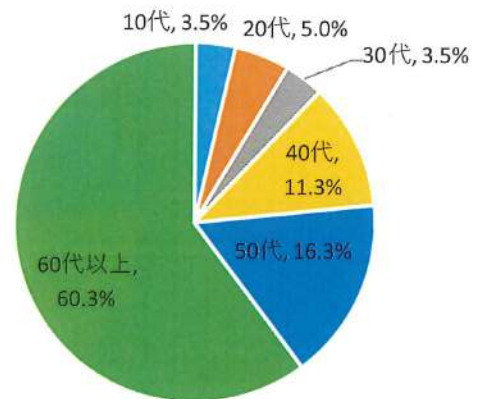
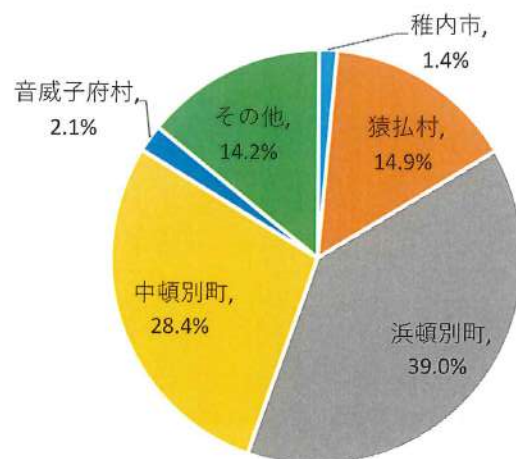


表8-3

居住地	回答数	構成比
稚内市	2	1.4%
猿払村	21	14.9%
浜頓別町	55	39.0%
中頓別町	40	28.4%
音威子府村	3	2.1%
その他	20	14.2%
合計	141	100.0%



(2) 利用状況

利用目的は「通院・通所」が最も多く、約半数を占めました。上り便の利用者の降車場所は旭川市が約7割と最も多く、次いで札幌市、名寄市の順となっており、最終目的地も同様に旭川市が最も多く、次いで札幌市、名寄市の順であることが分かりました。

表8-4

乗車方向	回答数	構成比
上り	128	90.8%
下り	13	9.2%
合計	141	100.0%

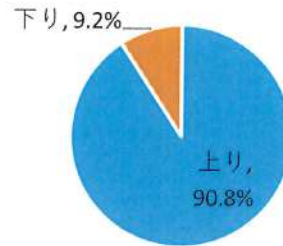


表8-5

利用目的	回答数	構成比
買い物	5	3.4%
仕事	3	2.1%
通院・通所	72	49.3%
旅行・行楽	26	17.8%
帰郷・離郷	27	18.5%
その他	13	8.9%
合計	146	100.0%

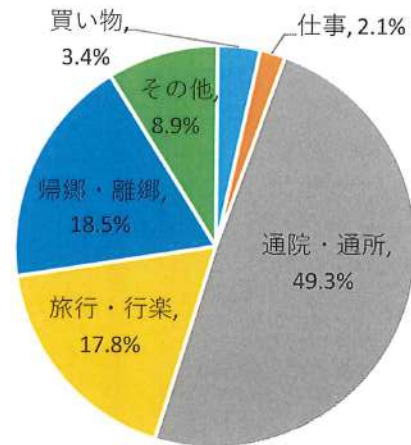


表8-6

下り便利用者 降車場所	回答数	構成比
中頓別町	1	7.7%
浜頓別町	8	61.5%
猿払村	4	30.8%
合計	13	100.0%

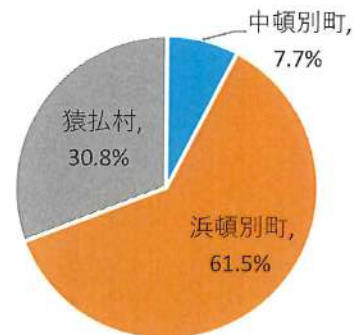


表8-7

上り利用者 降車場所	回答数	構成比
札幌市	19	14.8%
旭川市	89	69.5%
名寄市	17	13.3%
音威子府村	2	1.6%
不明	1	0.8%
合計	128	100.0%

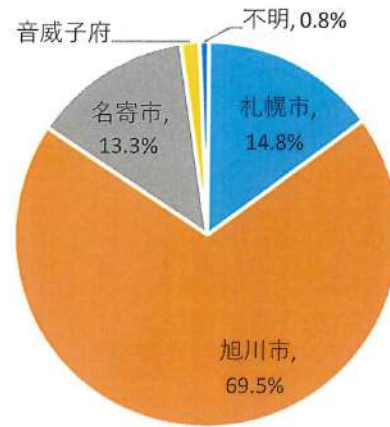
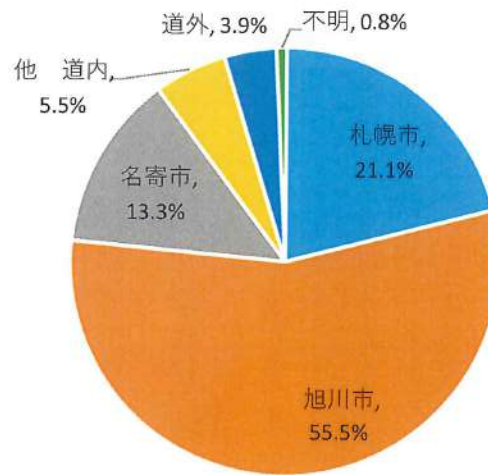


表8-8

上り利用者 最終目的地	回答数	構成比
札幌市	27	21.1%
旭川市	71	55.5%
名寄市	17	13.3%
他 道内	7	5.5%
道外	5	3.9%
不明	1	0.8%
合計	128	100.0%



### (3) 意見・要望

本数について、「増便してほしい」という要望が多かったほか、「通院で旭川に行くために必要なので存続してほしい」という意見も多くありました。

また、「JRより運賃が安いので助かる」、「運休が少なく助かっている」という声も寄せられました。